

**【参考資料】**

CSS を参考にした組版指定交換形式

2007 年 4 月 25 日  
社団法人 日本印刷技術協会  
縦組スタイルシート作業部会

## 1. 目的

図1は、紙媒体、電子媒体、Webなどを通じた出版ワークフローを示したものである。

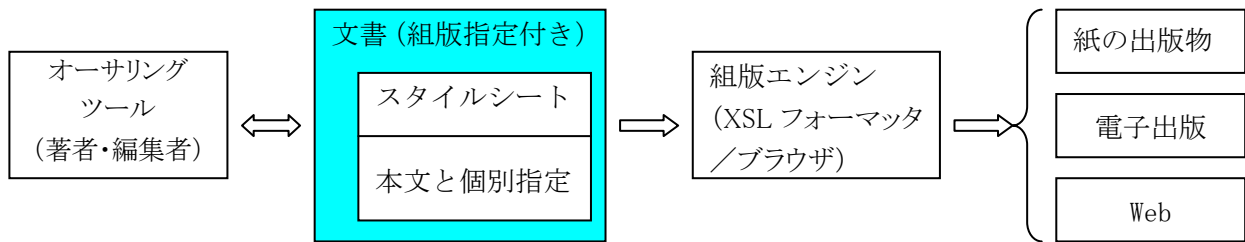


図1 出版ワークフロー

本資料は、図1の「文書（組版指定付き）」を構成するスタイルシート及び個別指定の指定方法を検討するために、電子ドキュメントのスタイルシートとして広く利用されているCSSを参考にして作成したものである。

## 2. 値の指定

特性値及び属性値の記述では、次の表記法に従う。

### 2.1 整数・実数

整数値は<integer>、実数値は<number>と表記する。どちらも十進数で、<number>は<integer>又は小数で表した実数とする。<integer>及び<number>は、正（+）又は負（-）の数を指定できる。正負の符号がつかない場合には正（+）とする。

### 2.2 長さ

長さは<length>と表記する。<length>は<number>に続けて、空白を入れずに相対量又は絶対量の単位記号を書く。ただし、値が0の場合は単位記号を省略してもよい。

### 2.3 比率

百分率は<percentage>と表記する。値は<number>に続けて、空白を入れずにパーセント記号（%）を書く。ただし、値が0の場合は単位記号を省略してもよい。

### 2.4 単位記号

#### 2.4.1 絶対量の単位は、次による。

- a) cm センチメートル
- b) mm ミリメートル
- c) jpt ポイント (1jpt=0.3514mm, JIS Z 8305 参照)
- d) pt DTP ポイント (1pt≒0.3528mm, 1pt は 1US インチの 72 分の 1 程度)
- e) q 級, Q (1q=0.25mm)

#### 2.4.2 相対量の単位は、次による。

- a) em 適用された文字サイズ
- b) en em の 2 分の 1 の寸法

### 3. 版面・用紙

#### 3.1 page model

組版指定交換形式及び組版方法の基本となる page model を、次のようにする。

##### 3.1.1 用紙・版面・margin

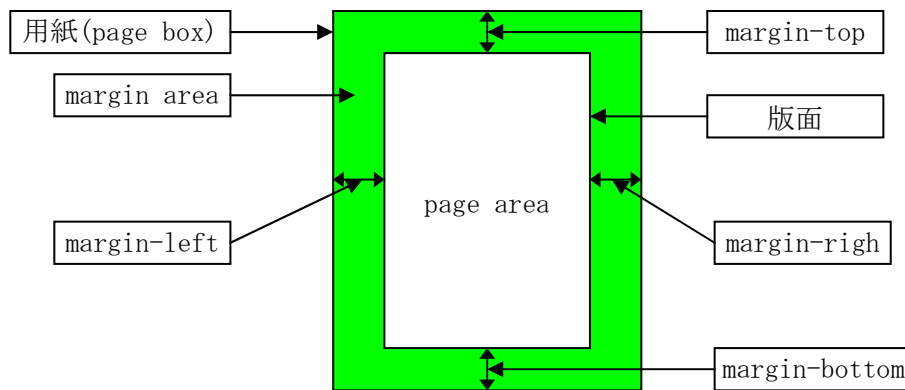


図2 用紙, 版面, margin

##### 3.1.2 margin box (柱及びノンプルの配置位置)

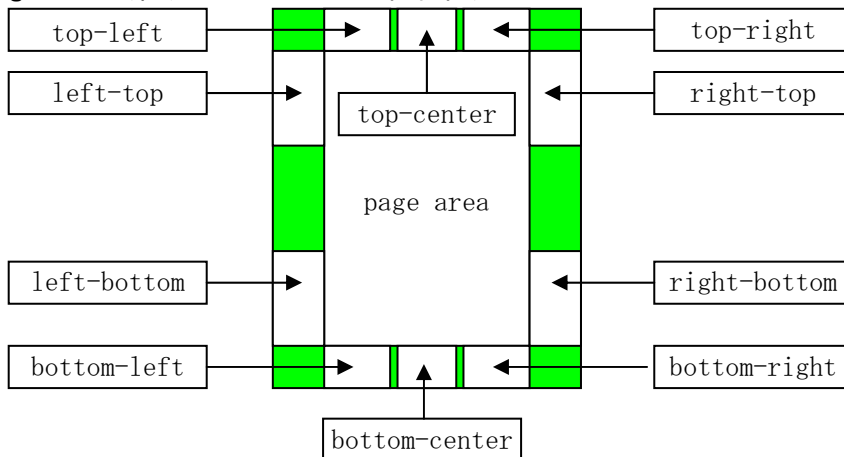


図3 margin box (柱及びノンプルの配置位置)

##### 3.1.3 版面 (page area), text box, note box

page area には、本文を流す text box 並びに、縦組の頭注又は脚注及び横組のサイドノートを配置する note box を配置する。text box と note box との間は note box gap で指定されたアキ量だけあける。また、段組の場合には、page area に指定された段数分の段 (column) を配置する。段と段の間は、段間 (column gap) で指定されたアキ量だけ空ける。

頭注又は脚注がある縦組の版面 (page area) と、text box, note box との関係を図4に、段組がある縦組又は横組の版面 (page area) と、text box, column との関係を図5に示す。

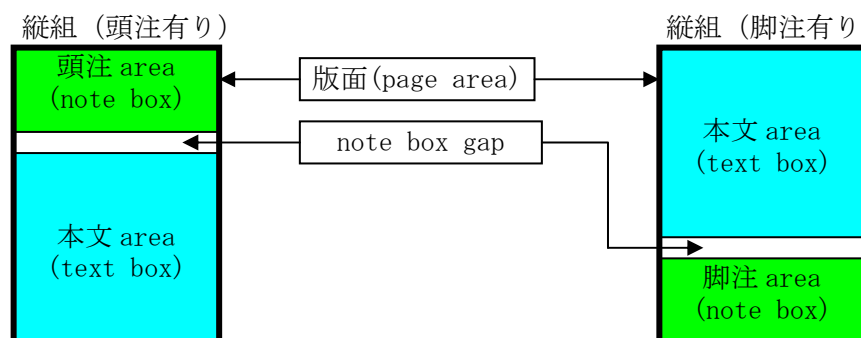


図4 頭注又は脚注がある縦組の版面 (page area) と、text box, note box との関係

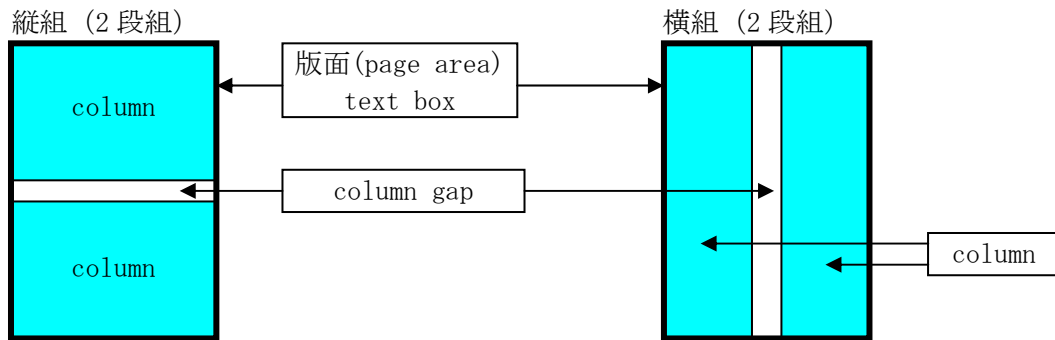


図5 段組がある縦組又は横組の版面 (page area) と、text box, column との関係

### 3.2 指定方法

page model に関する指定は、スタイルシート内での@page, @textbox, @notebox で指定する。

#### 3.2.1 @page での指定内容

用紙サイズ、用紙の向き、用紙に対する版面の位置、note box の配置位置並びに、柱及びノンブルの位置及び内容を指定する。左ページ及び右ページに共通な項目は@page で指定し、左ページに関する項目は@page:left で指定し、右ページに関する項目は@page:right で指定する。

##### a) 用紙サイズ及び用紙の向き

用紙サイズ及び用紙の向きは、size 特性の特性値で指定する。

size 特性の特性値：<length>{1,2} | [<page-size> || [portrait | landscape]]

<length>{1,2}：用紙の幅と高さを絶対量で指定する。

例 @page { size: 210mm 297mm ; }

<page-size>：A6 (ISO, W105mmH148mm), A5 (ISO, W148mmH210mm), A4 (ISO, W210mmH297mm), A3 (ISO, W297mmH420mm), B5 (ISO, W176mmH250mm), B4 (ISO, W250mmH353mm), letter (W8.5inH11in), legal (W8.5inH14in), ledger (W11inH17in, tabloid)

portrait：portrait orientation (縦長方向)

landscape：landscape orientation (横長方向)

例 @page { size: A4 portrait ; }

##### b) 用紙に対する版面の位置

用紙に対する版面の位置は、本文が縦組の場合には「地」及び「のど」の空き量を、横組の場合には「天」及び「のど」の空き量を、margin 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号を書く。

- 1) 「地」の空き量は、margin-bottom 特性の特性値で指定する。
- 2) 「天」の空き量は、margin-top 特性の特性値で指定する。
- 3) 「のど」の空き量は、@page:left (左ページ) に対する margin-right 特性の特性値、又は@page:right (右ページ) に対する margin-left 特性の特性値で指定する。

例 @page { margin-bottom: 21mm ; }

@page:left { margin-right: 21mm ; }

@page:right { margin-left: 21mm ; }

##### c) 柱の配置位置及び内容

- 1) 柱の配置位置は、margin box で指定する。版面との空き量、柱内容の先頭・末尾の空き量等は padding 特性で指定する。組方向による柱の配置位置は次による。

- 1.1) 縦組における柱の配置位置は、天側余白の小口寄り (左ページ:top-left, 右ページ:top-right) を基本とする。地側余白の小口寄り (左ページ:bottom-left, 右ページ:bottom-right), 天側余白の左右中央 (top-center), 又は小口側余白 (左ページ:left-top, 右ページ:right-top, 柱は縦書き) に配置してもよい。

padding 特性の特性値は次のようにする。

天側余白の小口寄り：padding-bottom は版面の文字サイズの全角アキ。左ページの padding-left 及び右ページの padding-right は版面の文字サイズの全角アキ。ただし、padding-left 及び padding-right は 0 としてもよい。

地側余白の小口寄り：padding-top は版面の文字サイズの全角アキ。左ページの padding-left 及び右ページの padding-right は版面の文字サイズの全角アキ。ただし、padding-left 及び padding-right は 0 としてもよい。

天側余白の左右中央：padding-bottom は版面の文字サイズの全角アキ。

小口側余白：左ページの padding-right 及び右ページの padding-left は版面の行間以上、padding-top は版面の文字サイズの 4 倍程度。

- 1.2) 横組における柱の配置位置は、天側余白の左右中央 (top-center) を基本とする。天側余白の小口寄り (左ページ：top-left, 右ページ：top-right), 又は地側余白の小口寄り (左ページ：bottom-left, 右ページ：bottom-right) に配置してもよい。

padding 特性の特性値は次のようにする。

天側余白左右中央：padding-bottom は版面の文字サイズの全角アキ+1pt 以上。

天側余白の小口寄り：padding-bottom は版面の文字サイズの全角アキ+1pt 以上。左ページの padding-left 及び右ページの padding-right は 0 とする。ただし、padding-left 及び padding-right は版面の文字サイズの全角アキとしてもよい。

地側余白の小口寄り：padding-top は版面の文字サイズの全角アキ+1pt 以上。左ページの padding-left 及び右ページの padding-right は 0 とする。ただし、padding-left 及び padding-right は版面の文字サイズの全角アキとしてもよい。

- 1.3) 柱及びノンブルをとともに同一の天側余白の小口寄り又は同一の地側余白の小口寄りに配置する場合は、柱とノンブルとの間を柱の文字サイズの 2 倍アキ又は 1.5 倍アキとし、柱とノンブルの位置は次のようにする。ただし、ノンブルの左右位置は **d)** に従う。

- 1.3.1) 左ページでは、左側にノンブル、右側に柱を配置する。

- 1.3.2) 右ページでは、右側にノンブル、左側に柱を配置する。

## 2) 柱の掲げ方

柱を掲げる場合は、片柱方式又は両柱方式とする。

- 2.1) 片柱方式 奇数ページに、次のいずれかの内容の柱を一つ配置する。

- 2.1.1) 柱文字列：中扉の標題

- 2.1.2) 柱番号のラベル名：大見出しのラベル名

柱番号の番号：大見出しの番号

柱文字列：大見出しの見出し文字列

- 2.1.3) 柱番号のラベル名：中見出しのラベル名

柱番号の番号：中見出しの番号

柱文字列：中見出しの見出し文字列

- 2.1.4) 柱番号のラベル名：小見出しのラベル名

柱番号の番号：小見出しの番号

柱文字列：小見出しの見出し文字列

- 2.2) 両柱方式 偶数ページ及び奇数ページに、次のいずれか内容の柱を一つ配置する。

- 2.2.1) 奇数ページの柱の内容が 2.1.1) の場合には、偶数ページの柱の内容を書名とする。

- 2.2.2) 奇数ページの柱の内容が 2.1.2) の場合には、偶数ページの柱の内容を 2.1.1) とする。

- 2.2.3) 奇数ページの柱の内容が 2.1.3) の場合には、偶数ページの柱の内容を 2.1.2) とする。

- 2.2.4) 奇数ページの柱の内容が 2.1.4) の場合には、偶数ページの柱の内容を 2.1.3) とする。

**備考** 柱に掲げる書名、中扉の標題並びに見出しのラベル名、番号及び見出し文字列は、その一部を省略又は執筆者名などの文字列を追加し、表記方法を変更してもよい。見出しの番号が漢数字表記の場合は、横書きにする柱ではアラビア数字表記に修正することが望ましい。

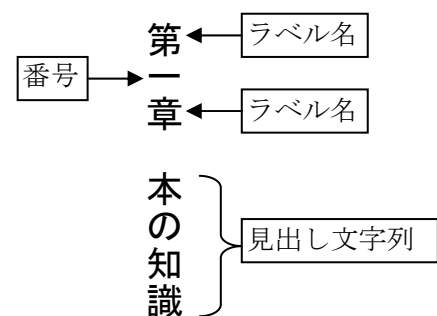


図 6 見出しの構成

また、約物は横書きの表記法に修正する。

- 3) 柱内容の指定は、running headers 指定を利用し、奇数ページの柱内容の指定クラス (.headerodd) 及び、偶数ページの柱内容の指定クラス (.headereven) を用意する。実際に表示される柱内容は、同一クラスの最新の内容とする。また、縦組では左ページが奇数ページになり、横組では右ページが奇数ページになる。柱の文字サイズは、版面の文字サイズの 1~2 段階小さくする。柱の組方向は、小口側余白（版面の組方向が縦組）では縦組に、それ以外の位置では版面の組方向に関わらず横組とする。

**例 1** 縦組の両柱方式（天側余白の小口寄り）の場合

```
<style>
.....
@page :left { @top-left { padding: 9pt ; text-align: start ; font-size: 8pt ;
                    content: pending(headerodd) ; }}
@page :right { @top-right { padding: 9pt ; text-align: end ; font-size: 8pt ;
                    content: pending(headereven) ; }}
.headerodd { position: running(headerodd) ; }
.headereven { position: running(headereven) ; }
.....
</style>
<body>
.....
<div class="headerodd">奇数ページの柱内容</div>
<div class="headereven">偶数ページの柱内容</div>
.....
</body>
```

**例 2** 柱とノンブルを同一の margin box に配置する場合（柱とノンブル間は 2 倍アキ）

```
<style>
.....
counter-increment: page ;
@page :left { @top-left { padding: 9pt ; text-align: start ; font-size: 8pt ;
                    content: " (" counter(page) )"      " pending(headerodd) ; }}
@page :right { @top-right { padding: 9pt ; text-align: start ; font-size: 8pt ;
                    content: pending(headereven) "      (" counter(page) )" ; }}
.headerodd { position: running(headerodd) ; }
.headereven { position: running(headereven) ; }
.....
</style>
<body>
.....
<div class="headerodd">奇数ページの柱内容</div>
<div class="headereven">偶数ページの柱内容</div>
.....
</body>
```

**d) ノンブルの配置位置と内容**

ノンブルの配置位置は、margin box 及び at-rule for margin boxes で指定する。版面との空き量、ノンブル内容の先頭・末尾の空き量等は padding 特性で指定する。組方向によるノンブルの配置位置は次による。

- 1) 縦組のノンブルの配置位置は、地側余白の小口寄り（左ページ：bottom-left, 右ページ：bottom-right）を基本とする。天側余白の小口寄り（左ページ：top-left, 右ページ：top-right）、地側余白の左右中央（bottom-center）、又は小口側余白（左ページ：left-top, 右ページ：right-top, ノンブルは漢数字で縦書き）に配置してもよい。

padding 特性の特性値は次のようにする。

地側余白の小口寄り：padding-top は版面の文字サイズの全角アキ。左ページの padding-left 及び右ページの padding-right は版面の文字サイズの全角アキ。ただし、padding-left 及び padding-right は 0 としてもよい。

天側余白の小口寄り：padding-bottom は版面の文字サイズの全角アキ。左ページの padding-left 及び右ページの padding-right は版面の文字サイズの全角アキ。ただし、padding-left 及び padding-right は 0 としてもよい。

小口側余白：左ページの padding-right 及び右ページの padding-left は版面の行間以上。padding-bottom は版面の文字サイズの 5 倍程度。

- 2) 横組のノンブルの配置位置は、天側余白の小口寄り（左ページ：top-left, 右ページ：top-right）を基本とする。地側余白の左右中央（bottom-center）、又は地側余白の小口寄り（左ページ：bottom-left, 右ページ：bottom-right）に配置してもよい。

padding 特性の特性値は次のようにする。

天側余白の小口寄り：padding-bottom は版面の文字サイズの全角アキ+1pt 以上。左ページの padding-left 及び右ページの padding-right は 0 とする。ただし、padding-left 及び padding-right は版面の文字サイズの全角アキとしてもよい。

地側余白の左右中央：padding-top は版面の文字サイズの全角アキ+1pt 以上。

地側余白の小口寄り：padding-top は版面の文字サイズの全角アキ+1pt 以上。左ページの padding-left 及び右ページの padding-right は 0 とする。ただし、padding-left 及び padding-right は版面の文字サイズの全角アキとしてもよい。

- 3) ノンブルの文字サイズは、版面の文字サイズより 1~2 段階小さくする。ノンブルの組方向は、小口側余白（版面の組方向が縦組）では漢数字を使用して縦組に、それ以外の位置では版面の組方向に関わらずアラビア数字を使用して横組とする。

例 <style>

.....

```
@page :left { @top-left { padding: 9pt ; text-align: start ; font-size: 8pt ;
                        content: " (" counter(page) )" ; } }
```

```
@page :right { @top-right { padding: 9pt ; text-align: end ; font-size: 8pt ;
                        content: " (" counter(page) )" ; } }
```

.....

</style>

#### e) note box の配置位置

版面（page area）に対する note box の位置を、notebox-position 特性の特性値で指定する。特性値は、left | right | top | bottom とする。

top：版面内の上部に note box を配置し、その下部に text box を配置する。（縦組の頭注）

bottom：版面内の下部に note box を配置し、その上部に text box を配置する。（縦組の脚注）

left：版面内の左側に note box を配置し、その右側に text box を配置する。（サイドノート）

right：版面内の右側に note box を配置し、その左側に text box を配置する。（サイドノート）

#### f) note box と text box との間の空き量

note box と text box との間の空き量は、notebox-gap 特性の特性値で指定する。特性値は、正（+）の<integer>に続けて空白を入れずに相対量の単位記号 em を書く。相対量の基準は、@textbox に対して指定された font-size 特性の特性値とする。

### 3.2.2 @textbox での指定内容

本文を組版する領域 (text box) に関する組方向、文字サイズ、段数、1 段の字詰数、1 段の行数、1 段の行間、段間、段間罫の線種・線幅など基本的な項目を指定する。

#### a) 組方向

組方向は、writing-mode 特性を使用して縦組又は横組を指定する。

縦組は writing-mode 特性の特性値 tb-rl で指定し、横組は writing-mode 特性の特性値 lr-tb で指定する。

#### b) 文字サイズ

文字サイズは font-size 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号 jpt, pt 又は q を書く。

#### c) 段数

段数は column-count 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<integer>を書く。

#### d) 1 段の字詰数

1 段の字詰数は column-width 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<integer>に続けて空白を入れずに相対量の単位記号 em を書く。相対量の基準は、@textbox に対して指定された font-size 特性の特性値、つまり b) の指定値とする。

#### e) 1 段の行数

1 段の行数は lines 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<integer>に続けて相対量の単位記号 lines を書く。相対量の基準は、@textbox に対して指定された font-size 特性の特性値、つまり b) の指定値とする。

#### f) 1 段の行間

1 段の行間は line-gap 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号 cm, mm, jpt, pt 又は q を書くか、あるいは、相対量の単位記号 em 又は en を書く。相対量の基準は、@textbox に対して指定された font-size 特性の特性値、つまり b) の指定値とする。

#### g) 段間

段間は column-gap 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号 cm, mm, jpt, pt 又は q を書くか、あるいは、相対量の単位記号 em 又は en を書く。相対量の基準は、@textbox に対して指定された font-size 特性の特性値、つまり b) の指定値とする。

#### h) 段間罫の線種

段間罫の線種は column-rule-style 特性の特性値で指定する。特性値は、none | solid とする。

#### i) 段間罫の線幅

段間罫の線幅は column-rule-width 特性の特性値で指定する。

特性値は、thin | medium | thick | <length> とする。ただし、特性値の thin, medium 及び thick は、thin: 表罫 (0.12mm), medium: 中細罫 (0.25mm), thick: 裏罫 (0.4mm) とする。

### 3.2.3 @notebox での指定内容

@notbox では縦組の頭注又は脚注、あるいは横組のサイドノートを組版する領域 (notebox) に関する組方向、文字サイズ、1 行の字詰数、行間を指定する。

#### a) 組方向

組方向は、writing-mode 特性を使用して縦組又は横組を指定する。

縦組は writing-mode 特性の特性値 tb-rl で指定し、横組は writing-mode 特性の特性値 lr-tb で指定する。

#### b) 文字サイズ

文字サイズは font-size 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号 jpt, pt 又は q を書く。

## c) 1 行の字詰数

1 行の字詰数は column-width 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<integer>に続けて空白を入れずに相対量の単位記号 em を書く。相対量の基準は、@notebox に対して指定された font-size 特性の特性値、つまり b) の指定値とする。

## d) 行間

行間は line-gap 特性の特性値で指定する。特性値は、正 (+) の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号 cm, mm, jpt, pt 又は q を書くか、あるいは、相対量の単位記号 em 又は en を書く。相対量の基準は、@notebox に対して指定された font-size 特性の特性値、つまり b) の指定値とする。

## 3.3 版面 (page area) 寸法の算出

版面寸法は、3.2.2@textbox での指定内容及び 3.2.3@notebox での指定内容に基づき、次のように算出する。

## 3.3.1 版面の字詰方向の寸法は、次の式で算出する。

$$(\text{textbox の字詰方向寸法}) + (\text{notebox の字詰方向寸法}) + (\text{notebox と textbox との間の空き量})$$

## a) textbox の字詰方向寸法は、次の式で算出する。

$$(\text{文字サイズ} \times \text{1 段の字詰数} \times \text{段数}) + \{\text{段間} \times (\text{段数} - 1)\}$$

## b) notebox の字詰方向寸法は、次の式で算出する。

$$\text{文字サイズ} \times \text{1 行の字詰数}$$

## c) notebox と textbox との間の空き量は、3.2.1 f) による。

## 3.3.2 版面の行送り方向の寸法は、textbox の行送り方向の寸法と同一で、次の式で算出する。

$$(\text{1 段の行数} \times \text{文字サイズ}) + \{\text{1 段の行間} \times (\text{1 段の行数} - 1)\}$$

## 3.4 記述例

## a) A5 判, 縦組, 頭注無し, 1 段組, 両柱方式, 文字サイズ 9pt, 51 字, 18 行, 行間 8pt

柱: top-left, top-right ノンブル: bottom-left, bottom-right

版面位置: 地 24mm, ノド 21mm

<HEAD>

```
<STYLE type="text/vcsswg">
```

```
@page { size: A5 portrait ; margin-bottom: 24mm ;
```

```
counter-increment: page ;
```

```
@page:left { margin-right: 21mm ;
```

```
  @top-left { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: start ;
                font-size: 8pt ; content: pending(headerodd) ; }
```

```
  @bottom-left { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: start ;
                  font-size: 8pt ; content: " (" counter(page) )" ; }
```

```
@page:right { margin-left: 21mm ;
```

```
  @top-right { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: end ;
                font-size: 8pt ; content: pending(headereven) ; }
```

```
  @bottom-right { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: end ;
                   font-size: 8pt ; content: " (" counter(page) )" ; }
```

```
.headerodd { position: running(headerodd) ; }
```

```
.headereven { position: running(headereven) ; }
```

```
@textbox { writing-mode: tb-rl ; font-size: 9pt ; column-count: 1 ; column-width: 51em ;
            lines: 18lines ; line-gap: 8pt ; }
```

```
</STYLE>
```

```
</HEAD>
```

## b) A5 判, 縦組, 2 段組, 片柱方式, 文字サイズ 9pt, 1 段の字詰数 25 字, 1 段の行数 21 行,

行間 6pt, 段間 2em, 柱: top-left ノンブル: bottom-left, bottom-right

版面位置：地 22.5mm, ノド 19.5mm

```
<HEAD>
<STYLE type="text/vcsswg">
@page { size: A5 portrait ; margin-bottom: 22.5mm ; }
counter-increment: page ;
@page:left { margin-right : 19.5mm ;
    @top-left { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: start ;
        font-size: 8pt ; content: pending(headerodd) ; }
    @bottom-left { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: start ;
        font-size: 8pt ; content: " (" counter(page) " ) " ; }}
@page:right { margin-left : 19.5mm ;
    @bottom-right { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: end ;
        font-size: 8pt ; content: " (" counter(page) " ) " ; }}
.headerodd { position: running(headerodd) ; }
@textbox { writing-mode: tb-rl ; font-size: 9pt ; column-count: 2 ; column-width: 25em ;
    column-gap: 2em ; column-rule-style: solid ; column-rule-width: thin ;
    lines: 21lines ; line-gap: 8pt ; }
</STYLE>
</HEAD>
```

- c) A5 判, 縦組, 頭注有, 1 段組, 片柱方式, 文字サイズ 9pt, 35 字, 17 行, 行間 9pt  
 柱：top-left ノンブル：bottom-left, bottom-right 版面位置：地 21.5mm, ノド 21.5mm  
 頭注：文字サイズ 7pt, 20 字, 行間 3pt notebox と textbox との空き量：2em (18pt)

```
<HEAD>
<STYLE type="text/vcsswg">
@page { size: A5 portrait ; margin-bottom: 21.5mm ;
    notebox-position: top ; notebox-gap: 2em ; }
counter-increment: page ;
@page:left { margin-right : 21.5mm ;
    @top-left { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: start ;
        font-size: 8pt ; content: pending(headerodd) ; }
    @bottom-left { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: start ;
        font-size: 8pt ; content: " (" counter(page) " ) " ; }}
@page:right { margin-left : 21.5mm ;
    @bottom-right { padding: 9pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: end ;
        font-size: 8pt ; content: " (" counter(page) " ) " ; }}
.headerodd { position: running(headerodd) ; }
@textbox { writing-mode: tb-rl ; font-size: 9pt ; column-count: 1 ; column-width: 35em ;
    lines: 17lines ; line-gap: 9pt ; }
@notebox { writing-mode: tb-rl ; font-size: 7pt ; column-width: 20em ; line-gap: 3pt ; }
</STYLE>
</HEAD>
```

- d) A5 判, 横組, サイドノート有, 1 段組, 両柱方式, 文字サイズ 9pt, 23 字, 27 行, 行間 9pt  
 柱：top-center ノンブル：top-left, top-right  
 サイドノート：文字サイズ 7pt, 12 字, 行間 3pt textbox との空き量：2em (18pt)  
 サイドノート位置：左ページ left, 右ページ right 版面：天 20.5mm, ノド 19.5mm  
 <HEAD>

```

<STYLE type="text/vcsswg">
@page { size: A5 portrait ; margin-top: 20.5mm ; }
counter-increment: page ;
@page:left { margin-right: 19.5mm ;
    @top-center { padding-bottom: 10pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: center ;
        font-size: 8pt ; content: pending(headereven) ; }
    @top-left { padding-bottom: 10pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: start ;
        font-size: 8pt ; content: " (" counter(page) " ) " ; }
    notebbox-position: left ; notebbox-gap: 2em ; }
@page:right { margin-left: 19.5mm ;
    @top-center { padding-bottom: 10pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: center ;
        font-size: 8pt ; content: pending(headerodd) ; }
    @top-right { padding-bottom: 10pt ; writing-mode: lr-tb ; text-align: end ;
        font-size: 8pt ; content: " (" counter(page) " ) " ; }}
    notebbox-position: right ; notebbox-gap: 2em ; }
.headerodd { position: running(headerodd) ; }
.headereven { position: running(headereven) ; }
@textbox { writing-mode: lr-tb ; font-size: 9pt ; column-count: 1 ; column-width: 23em ;
    lines: 27lines ; line-gap: 9pt ; }
@notebox { writing-mode: lr-tb ; font-size: 7pt ; column-width: 12em ; line-gap: 3pt ; }
</STYLE>
</HEAD>

```

## 4. 行組版

### 4.1 段落の始まり、折返し行頭及び行末の体裁

#### a) 指定方法

文書本文のすべての段落に対する体裁指定又は特定の段落クラスに対する体裁指定は、スタイルシート内で指定する。また、スタイルシート内とは別の体裁とする場合は、その段落の STYLE 指定で指定する。指定がない場合は、a) 1) の体裁が指定されたものとする。

指定は、para-style 特性の特性値で指定する。特性値は、full, full-half, half とする。

特性値 full : a) 1) の体裁を指定する。

full-half : a) 2) の体裁を指定する。

half : a) 3) の体裁を指定する。

#### b) 記述例

##### 1) スタイルシート内での指定

```

<HEAD>……………
<STYLE type="text/vcsswg">……………
P { para-style : full }
P.half { para-style : half }
</STYLE></HEAD>

```

##### 2) 文書本文中の特定段落の指定

```

<BODY>
<P>この段落の組方は a) 1) である。</P>
<P class="half">この段落の組方は a) 3) である。</P>
</BODY>

```

## 4.2 和欧文混植（わおうぶんこんしょく）処理

欧文ベースラインの調整量の指定がある場合には、次のように欧文ベースラインの位置を新たに設定して欧文用文字を配置する。

- 縦組で欧文ベースライン調整量が正（+）の場合は、指定された欧文ベースライン調整量だけ行送り方向で左側に離れた位置を新たな欧文ベースラインとして欧文用の文字を配置する。
- 縦組で欧文ベースライン調整量が負（-）の場合は、指定された欧文ベースライン調整量だけ行送り方向で右側に離れた位置を新たな欧文ベースラインとして欧文用の文字を配置する。
- 横組で欧文ベースライン調整量が正（+）の場合は、指定された欧文ベースライン調整量だけ行送り方向で下側に離れた位置を新たな欧文ベースラインとして欧文用の文字を配置する。
- 横組で欧文ベースライン調整量が負（-）の場合は、指定された欧文ベースライン調整量だけ行送り方向で上側に離れた位置を新たな欧文ベースラインとして欧文用の文字を配置する。

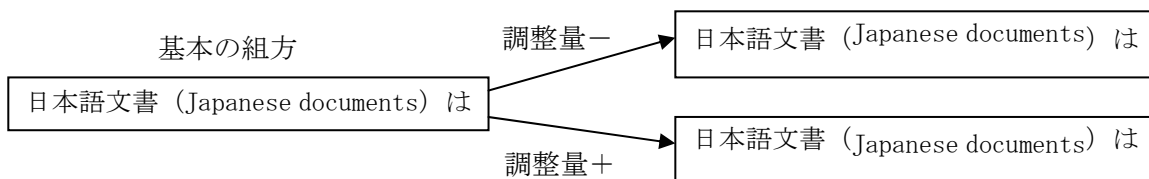


図7 横組における欧文ベースライン調整

- 欧文ベースラインの調整量の指定は、次による。  
文書全体で使用する欧文のベースラインの調整量を指定する場合は、スタイルシート内ですべての要素タイプに共通の class 属性で指定する。個別の欧文文字列については SPAN 要素の style で指定する。調整量は、baseline-align 特性の特性値で指定する。特性値は、正（+）又は負（-）の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号を書く。

例1 スタイルシート内での指定

```
<HEAD>……………
<STYLE type="text/vcsswg">……………
.base-align { baseline-align: 0.2pt }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
<P class="base-align">この段落中の欧文は style sheet の指定に従う。</P>
</BODY>
```

例2 文書本文中の特定欧文文字列の指定

```
<BODY>
<P>個別の欧文の調整量は、<SPAN style="baseline-align:0.1pt">baseline</SPAN>で指定する。
</P>
</BODY>
```

## 4.3 縦中横（たてちゅうよこ）処理

縦中横処理の指定は次による。

- スタイルシート内で、すべての要素タイプに共通な class 属性の writing-mode 特性を特性値 lr-tb で指定し、本文中で SPAN 要素の class 属性を指定する。
- 縦組（text-direction 特性の特性値が tb-rl）の中の縦中横処理対象文字列を SPAN 要素で指定し、その SPAN 要素に対する style 指定で writing-mode 特性の特性値 lr-tb を指定する。

例1 スタイルシート内での指定

```
<HEAD>……………
<STYLE type="text/vcsswg">……………
```

```
@textbox { text-direction: tb-rl ;
            ..... ; }
.yoko { writing-mode : lr-tb }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
<P>前年同月比で<SPAN class="yoko">5.8</SPAN>%の増加</P>
</BODY>
```

## 例 2 文書本文中の特定欧文文字列の指定

```
<HEAD>.....
<STYLE type="text/vcsswg">.....
@textbox { text-direction: tb-rl ;
            ..... ; }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
<P>前年同月比で<SPAN style="writing-mode : lr-tb">5.8</SPAN>%の増加</P>
</BODY>
```

### 4.4 ルビ処理

ルビの指定方法は次による。

- a) 親文字列及びルビ文字列からなる親文字群の全体を RUBY 要素で指定する。
- b) モノルビの指定は次の 1) に続けて 2) で指定し、親文字とルビ文字列との対応は、RB 要素と RT 要素のそれぞれの先頭から順番に対応をとる。
  - 1) モノルビの親文字列全体は RBC 要素で指定し、個々の親文字は RB 要素で指定する。
  - 2) モノルビのルビ文字列全体は RTC 要素で指定し、個々の親文字に対応するルビ文字列は RT 要素で指定する。
- c) グループルビの指定は次の 1) に続けて 2) で指定する。
  - 1) グループルビの親文字列全体を RB 要素で指定する。
  - 2) グループルビのルビ文字列全体を RT 要素で指定する。
- d) ルビ文字列の文字サイズ及び書体の指定は、RTC 要素又は RT 要素に対する style で指定する。文字サイズは font-size 特性の特性値で、書体は font-family 特性の特性値で指定する。
- e) ルビ文字列の長さが親文字列の長さ以上の親文字群が行頭又は行末に位置した場合の配置法の指定は、RUBY 要素に対する ruby-align 特性の特性値で指定する。本文中のすべての RUBY 要素に対する指定は、スタイルシートで指定する。特性値は、auto | line-edge とする。指定が無ければ auto が指定されたものとする。

auto : 配置したルビ文字列の長さが親文字列の長さ以上の親文字群が、行頭に位置した場合はルビ文字列の先頭を行頭に揃え、行末に位置した場合はルビ文字列の最後尾を行末に揃える。

line-edge : 配置したルビ文字列の長さが親文字列の長さ以上の親文字群は、行頭では親文字列及びルビ文字列の先頭を行頭に揃え、行末では親文字列及びルビ文字列の最後尾を行末に揃える

```
例 <HEAD>.....
<STYLE type="text/vcsswg">.....
RUBY { ruby-align: line-edge }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
```

```

<P>グループルビは、
  <RUBY>
    <RB>五月雨</RB>
    <RT>さみだれ</RT>
  </RUBY>
で、モノルビは、
  <RUBY>
    <RBC><RB>詳</RB><RB>細</RB></RBC>
    <RTC><RT>しよう</RT><RT>さい</RT></RTC>
  </RUBY>
のように指定する。</P>
</BODY>

```

#### 4.5 割注（わりちゅう）処理

割注の指定は、次による。

- a) 文書本文中の特定文字列を割注として指定する場合は、次による。
- 1) 割注対象文字列を SPAN 要素に対する text-combine 特性の特性値 lines で指定する。
  - 2) 割注文字列の文字サイズはその SPAN 要素に対する font-size 特性の特性値で指定する。
  - 3) 割注行前後に配置する括弧類の種類は parentheses-type 特性、字幅は parentheses-width 特性、文字サイズは parentheses-height 特性の各特性値で指定する。
- parentheses-type 特性の特性値は、parenthesis | curly-bracket | square-bracket | space とする。
- parenthesis：小括弧「(」及び「)」  
 curly-bracket：中括弧「{」及び「}」  
 square-bracket：大括弧「[」及び「]」  
 space：空き
- parentheses-width 特性及び parentheses-height 特性の特性値は、正（+）の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号 pt 又は jpt を書く。
- b) スタイルシートを使用して指定する場合は、スタイルシートで SPAN 要素に対する a) の各特性の特性値を指定した class 属性を定義し、文書本文中で SPAN 要素の class 属性を指定する。

```

例 <HEAD>……………
  <STYLE type="text/vcsswg">……………
    SPAN.warityu {
      text-combine : lines ;
      font-size : 7pt ;
      parentheses-type: parenthesis ;
      parentheses-width : 7.5pt ;
      parentheses-height : 15pt ;
    }
  </STYLE>
</HEAD>
<BODY>
  <P>割注<SPAN class="warityu">行中で複数行に割書きした注釈のこと</SPAN>の指定</P>
</BODY>

```

#### 4.6 振分け（ふりわけ）処理

振分け処理の指定は、次による。

- a) 文書本文中の特定文字列を振分けとして指定する場合は、次による。

- 1) 振分け処理の対象文字列全体を SPAN 要素に対する text-divide 特性の特性値 multi-line で指定する。
  - 2) 同一振分け処理に含まれる振分け行の文字列は ML 要素で指定する。
  - 3) 同一 ML 要素内で行を折り返す場合には、折り返し箇所を BR 要素で指定する。
  - 4) 振分け行の文字サイズは SPAN 要素に対する font-size 特性の特性値でしてはいる。
  - 5) 振分け行長を指定する場合は SPAN 要素に対する line-length 特性の特性値で指定する。line-length 特性の特性値は、正 (+) の<integer>に続けて空白を入れずに相対量の単位記号 em を書く。相対量の基準は、同一 SPAN 要素に対して指定された font-size 特性の特性値とする。
  - 6) 振分け行の間隔は SPAN 要素に対する space-lines 特性の特性値で指定する。space-lines 特性の特性値は、正 (+) の<number>に続けて空白を入れずに絶対量の単位記号 cm, mm, jpt, pt 又は q を書くか、あるいは、相対量の単位記号 em 又は en を書く。相対量の基準は、同一 SPAN 要素に対して指定された font-size 特性の特性値とする。
- b) スタイルシートを使用して指定する場合は、スタイルシートで SPAN 要素に対する a) の各特性の特性値を指定した class 属性を定義し、文書本文中で SPAN 要素の class 属性を指定する。

例 <HEAD>……………

```
<STYLE type="text/vcsswg">……………
SPAN.furiwake { text-divide: multi-line;
                font-size: 9pt;
                line-length: 15em;
                space-lines: 7pt; }
```

</STYLE>

</HEAD>

<BODY>

```
<P>添え字の配置位置には、親文字の {
<SPAN class="furiwake">
<ML>1. 前側の上部</ML>
<ML>2. 前側の下部</ML>
<ML>3. 後ろ側の上部<BR> (上付き文字) </ML>
<ML>4. 後ろ側の下部<BR> (下付き文字) </ML>
</SPAN>
```

} がある。</P>

</BODY>

**【問題点】**

振分け処理を囲む括弧類の文字サイズや字幅をどのように指定するか？

#### 4.7 字取り処理

字取り処理の指定は、次による。

- a) 文書本文中の特定文字列を字取り処理として指定する場合は、次による。
  - 1) 字取り処理の対象文字列を SPAN 要素に対する text-divide 特性の特性値 letters で指定する。
  - 2) 字取り処理文字列の文字サイズはその SPAN 要素に対する font-size 特性の特性値で指定する。
  - 3) 字取り処理を行う領域の字詰方向の長さは、jidori-length 特性の特性値で指定する。jidori-length 特性の特性値は、正 (+) の<integer>に続けて空白を入れずに相対量の単位記号 em を書く。相対量の基準は、同一 SPAN 要素に対して指定された font-size 特性の特性値とする。
- b) スタイルシートを使用して指定する場合は、スタイルシートで SPAN 要素に対する a) の各特性の特性値を指定した class 属性を定義し、文書本文中で SPAN 要素の class 属性を指定する。

例 <HEAD>……………

```
<STYLE type="text/vcsswg">……………
SPAN.jidori7 { text-divide: letters;
               font-size: 9pt;
               jidori-length: 7em; }
```

</STYLE>

```

</HEAD>
<BODY><P>7字取りの例
<SPAN class="jidori7">小野 恵二郎</SPAN>, <SPAN class="jidori7">川崎 博治</SPAN>
</SPAN>である。</P>
</BODY>

```

#### 4.8 圏点（けんてん）処理

圏点処理の指定は、次による。

- a) 文書本文中の特定文字列を字取り処理として指定する場合は、次による。
- 1) 圏点の対象文字列を EM 要素 (Emphasis) 又は STRONG 要素 (Strong Emphasis) で指定する。
  - 2) EM 要素又は STRONG 要素の style として、圏点の文字種は font-emphasize-style 特性で、圏点の位置は font-emphasize-position 特性の特性値 before で指定する。  
font-emphasize-style 特性の特性値は、sesame-dot (ゴマ), white-sesame-dot (白ゴマ), black-circle, white-circle, bullseye (二重丸), fisheye (蛇の目), black-up-pointing-triangle (黒三角), white-up-pointing-triangle (三角) とする。
- b) スタイルシートを使用して指定する場合は、スタイルシートで EM 要素又は STRONG 要素に対する a) の各特性の特性値を指定した class 属性を定義し、文書本文中で EM 要素又は STRONG 要素の class 属性を指定する。

例 <HEAD>……………

```

<STYLE type="text/vcsswg">……………
EM.whitesesame { font-emphasize-style: white-sesame-dot;
                  font-emphasize-position: before; }
</STYLE>
</HEAD>
<BODY>
<P>白ゴマの圏点の例
<EM class=" whitesesame ">源氏物語</EM>
とゴマの圏点の例
<EM style=" font-emphasize-style: sesame-dot; font-emphasize-position: before; ">
日本書紀</EM>
である。</P>
</BODY>

```